

第101回 全国高校野球選手権 青森大会

▶第9日◀

光星、聖愛4強入り

第101回全国高校野球選手権青森大会は19日再開し、弘前はるか夢球場で準々決勝2試合を行った。八学光星は近藤遼一の本塁打2本を含む11得点で三沢商にコー

ルド勝ち。弘学聖愛は三沢を9-2の8回コールドで下し、それぞれ準決勝に進出した。20日は同球場で、準々決勝の残り2試合を行い、4強が出そろふ。(取材班)

強打の光星 本領

三沢商好機生かせず

準々決勝

三沢商 000000110
八学光星 00000007
(5回コールド)

準 (三) 豊川、根城、鶴ヶ崎 (四) 三沢商、近藤が中越え
準 (一) 山田、中澤 (二) 本塁打 近藤2 (三) 二塁打 中澤、山田、伊藤 (四) 三塁打 伊藤
準 (一) 宇野、古川幹 (二) 八学光星が大接球
準 (一) 三沢商の左翼線への2点本塁打、近藤の左越え満塁
準 (一) 三沢商の左翼線への2点本塁打、近藤の左越え満塁
準 (一) 三沢商の左翼線への2点本塁打、近藤の左越え満塁



【三沢商-八学光星】3回八学光星1死一、二塁、近藤遼一が中越え3点本塁打を放ち3-0とする=弘前はるか夢

近藤 豪快2発 7打点大暴れ

HERO ヒーロー
三回一死、二塁を打席に立つた近藤遼一は、2球目の高め直球を強振した。ライナー性の当たりはバックスリートを直撃す。先制3ラン。八学光星にとって、一回までの攻守の重苦しさを振り払う一発となった。準々決勝では、打線が一回までセーブアウトを喫って地区予選免除で臨んだ春季県大会では、昨秋はコールド勝ちしていた青森山田に初戦敗退し、今夏のシード権を逃した。悔しから今夏に向けて練習には気合を入れて、高い意識で取り組んできたことで、「春より打てるポイントが広くなった。二回までの攻守の重苦しさを振り払う一発となった。準々決勝では、打線が一回までセーブアウトを喫って地区予選免除で臨んだ春季県大会では、昨秋はコールド勝ちしていた青森山田に初戦敗退し、今夏のシード権を逃した。悔しから今夏に向けて練習には気合を入れて、高い意識で取り組んできたことで、「春より打てるポイントが広くなった。この一発が猛攻のうしろとなった。五回に試合を締めくくったのも近藤。1死満塁の場面で、交代したばかりの相手左腕のスライダ1を左翼スタンドにたたき込んだ。自身大会4本目は、コールド勝ちを決めるグラブドラムだった。この試合は7打点と、大暴れした近藤だが、「気を引き締め続けよう」と、至って冷静。3季連続甲子園へあと2勝。視線は曇りなく次戦へ向いている。(林泰輔)

5回無失点だった八学光星の先発山田怜卓



青森山田戦の横山に刺激 山田好投 5回無失点

○：八学光星の先発マウンドに上がった右腕山田怜卓。5回無失点だったが、ほぼ毎回走者を背負う投球内容に「直球が抜けて高くなった。力みがあった」と反省しきりだった。

もともと直球を狙われたため、勝負どころでは右打者の外角へ逃げるスライダーをうまく使い、切り抜けた。「最後まで得点を許さなかったことだけは収穫だった」

3回戦の青森山田戦でチームメイトの横山海夏風的好投に刺激を受けたという山田。「後藤（丈海）だけに負担を掛けないように、

自分たちも頑張ろうと言っていた中、横山はやってくれた」

次戦以降での登板に向けて「自分も後藤を支えられるよう、負けない投球をしたい」と闘志をみなぎらせた。